



東風 ~こち~

佐藤 孝一 病院長

広報誌「東風 ~こち~」創刊にあたって

名古屋市立東部医療センターを代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

皆様に良質な医療を提供していくためには、地域でそれぞれの病院、診療所、その他医療機関に合った機能を生かしながら、連携して診療していかなければなりません。

「それは医療側の問題でしょう!」と思わないでください。

この中でも、皆様の役割は重要です。

「この病院は、どんな機能を
持っているのだろうか?」

この答えを皆様はいろいろな情報を利用して調べることになります。

そこで、我々は名古屋市立東部医療センターのことを皆様にわかりやすく理解していただくために、この広報誌「東風 ~こち~」を作成いたしました。

ぜひご参考になさってください。

また、「東部医療センターのこんなことを知りたい!」「こんな病院になってほしい!」など多くのご意見もうかがい、皆様からより信頼される病院になりたいと願っております。



佐藤病院長 建設中の救急・外来棟の前で (撮影場所:現在の外来棟屋上)

基本理念

市民の命と健康を守り、「奉仕」「満足」「笑顔」が見える、質の高い医療を提供します。



基本方針

市立病院として市民の健康のために貢献します。
医療の安全と質の向上に努め、患者さんの権利を尊重します。

患者さんは以下の権利を有します

- 個人の尊厳が守られる権利
- 医療行為を自由に選択し、決定する権利
- 平等で良質な医療を受ける権利
- 十分な説明を受ける権利
- プライバシーが保障される権利
- 診療記録の開示を求める権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 要望を提案する権利

患者さんには以下の責務を果たしていただきます

- ご自身の健康に関する情報を提供する責務
- 他の患者さんへの医療に支障を与えない責務
- 医療提供者と協力する責務
- 病院の規則・指示・助言を守る責務

P2

医療最前線①

カプセル内視鏡システム・
小腸内視鏡システム

The Specialist

皮膚・排泄ケア認定看護師

P3

NEWS

- 救急科が発足しました
- 県内女性医師初の
日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医

イベントレポート

P4

市民健康講座のお知らせ

連携医紹介

医療最前線 VOL.1

カプセル内視鏡、小腸内視鏡システム



副院長(消化器内視鏡センター長)
川合 孝

小腸は非常に長くて(約7mもある)、しかも上部消化管(食道、胃、十二指腸)と大腸の間に位置しているために内視鏡を挿入していくことが難しく、小腸内を観察する方法がありませんでした。

ところが近年、小腸内視鏡とカプセル内視鏡が開発されて、これまで暗黒の領域と言われていた小腸内を観察することが出来るようになりました。

当院にも2014年3月に、小腸ダブルバルーン内視鏡システムおよびカプセル内視鏡システムが納入されました。

ダブルバルーン小腸内視鏡は、長い小腸の余分な伸び・たわみを解除しながら、内視鏡を深部まで挿入することが出来る仕組みがある特殊な機器です(写真1)。



写真1 (ダブルバルーン小腸内視鏡)

カプセル内視鏡は、飲み込んだカプセルが自動的に毎秒数枚の写真を撮影しながら、消化管内を蠕動(せんどう)運動に従って進んでいきます。個人差はありますが、飲み込んだカプセルは8時間ほどで排泄されます。画像解析

装置を用いて、撮影された写真を分析して病変の有無を判定します(写真2)。



写真2 (カプセル内視鏡)

カプセル内視鏡では、病変の有無は判定できませんが、内視鏡スコープ検査のように生検(病変の一部を採取して病理診断を下す)や処置(止血術、狭窄解除術など)は出来ません。カプセル内視鏡で病変が見つかったら、内視鏡検査でさらに詳しく検査をすることになります。

小腸の病気は胃や大腸に比べて少なく、小腸内視鏡検査は決して楽な検査ではありませんので、まずは身体に負担の少ないカプセル内視鏡で調べてから、さらに精査が必要であれば、内視鏡検査を追加して行うのが一般的です。

これまで、カプセル内視鏡は小腸用カプセルしか販売されていませんでしたが、大腸用カプセルが2014年1月より保険適用になりました。まだまだカプセル内視鏡の保険適用に関しては制約がありますので、詳しくは消化器内科医師、医事係、地域医療連携センターなどへお問い合わせ下さい。

最後に当院での小腸検査の一症例をご紹介します。

貧血が誘引となって急性心不全を起こした79歳の患者さんです。

上部・下部内視鏡検査を施行しても貧血の原因となり得る病変は認められず、小腸カプセル内視鏡検査を施行したところ、空腸に40mmほどの腫瘍(写真3)が視認されました。



写真3 (カプセル内視鏡画像)

ダブルバルーン小腸内視鏡検査を行って同病変(写真4)を確認し、存在部位に目印を付けた後に外科で手術切除しました。

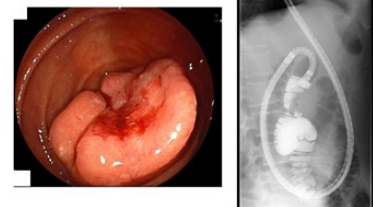


写真4 (ダブルバルーン小腸内視鏡画像)

この小腸腫瘍から出血が続いて貧血になっていたため、手術後に患者さんは元気に退院されました。

認定看護師として大切に行っていること
ケアの方法などを決める時には、患者さんやスタッフの思いをよく聴き、現状でできる最も効果的な方法を一緒に考えて、納得して治療や看護を受けてもらえるように支援していきたいです。

認定看護師の健康ワンポイントアドバイス
皮膚には、肌の水分を保持したり、外部から異物が侵入するのを防ぐ「バリア機能」という働きがありますが、乾燥や加齢などによりその働きは弱くなってしまいます。皮膚の健康を保つには、皮膚を清潔にし、乾燥を防ぐ「スキンケア」が大切。効果的な方法の1つとして、入浴後すぐに保湿剤を塗ってスキンケアすることもお勧めです。

こんな活動をしています
○体力の低下や痛みなどで体の向きが変えられないと、褥瘡(床ずれ)がでやすくなります。褥瘡ができたり、悪化したりするのを防ぐため、患者さんに適した姿勢やベッドマットの選択、スキンケアの方法を、スタッフと相談しながら考え、実践しています。
○人工肛門や人工膀胱をもつ患者さんのさまざまな悩みや相談を受け、入院中だけでなく、日常生活でも快適な毎日を過ごせるよう、情報提供や支援をしています。

The Specialist
当院のスペシャリスト

皮膚・排泄ケア認定看護師

今枝 裕子 看護師

創傷(褥瘡(床ずれ)や手術の傷)、ストーマ(人工肛門・人工膀胱)、失禁に関する看護を専門としている認定看護師です。

救急科が発足しました

救急科は平成26年7月に開設された当院で最も新しい診療科です。

診療内容としては、救急車で来院される患者さんの診療を、救急外来で全診療科協力のもと行っています。救急外来では緊急性の高い患者さんと重症度の高い患者さんを優先的に診療することになりますので、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

平成27年3月に救急・外来棟が開棟予定となっており、これまでご不便をお掛けしていた救急外来の環境が整備されます。今後はその環境に見合った充実した救急診療体制の構築を行い、地域の皆様が安心して受診できる環境を作っていけたらと考えています。

救急受診する際に何かご不便な点やお困りなことがあれば、病院スタッフにお伝えくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



救急科部長
安藤 雅樹

愛知県の女性医師で初の 「日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医」 に認定されました

産婦人科 橋 理香 医師

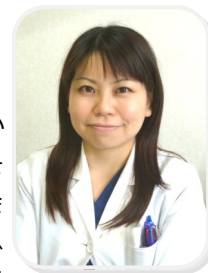
産婦人科 橋 理香医師が、内視鏡を用いた腹腔鏡(ふくくうきょう)手術の技術を評価され、愛知県の女性医師で初となる「日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医」に認定されました。

腹腔鏡手術は、おなか(腹腔内)を炭酸ガスでふくらませ、おへその周囲からカメラ(腹腔鏡)を挿入した状態で、おなかの数ヶ所を5~10mm切り、そこから手術用の器具を挿入して行う手術のことです。この手術法は、傷が小さいので術後の痛みが少なく回復が早いことから、急速に普及しており、卵巣腫瘍や子宮筋腫など、婦人科の病気の治療でも多く用いられています。

橋医師は、自分自身が良性腫瘍を切除するために開胸手術を受け、回復に約1か月かかったことや、手術後の痛みなどの経験

から、回復の早い腹腔鏡手術を受けられる機会を増やしたいと思い、本格的に腹腔鏡手術に関わるようになりました。体格が小柄な橋医師は、男性医師と同じように長い器具を小さな穴から操作することが難しかったため、他県の女性医師に相談したり、手術の見学に行ったり、穴の位置を工夫するなどの努力を重ねることにより、困難を克服し、手術の技術を高めました。

診療では、患者さんの話をよく聞き、できるだけ患者さんのライフスタイルや希望に合った治療法を提案できるよう努めているという橋医師。「今後も腹腔鏡手術の適応を広げられるように頑張りたい」と意気込みを語りました。



様々な出来事をご紹介 イベントレポート

災害対応訓練 10月25日(土)

東部医療センターでは、平成19年3月に災害拠点病院の指定を受けて以来、ひとりでも多くの市民の生命を守るため、災害時医療提供体制の整備を行っています。

その一環として、大きな地震が発生し多数の被災者が来院しているという想定での災害対応訓練を実施しました。地域住民の方々には患者役として、高見消防団と覚王山救急隊には患者搬送役としてご協力を頂きました。

13時50分に地震が発生したとの想定で、5分後には災害対策本部が設置されました。その指示のもと、職員が各部門に配置され、「災害時医療体制」が構築されました。

被災者を重症度判別部門(トリアージ)に誘導、重症・中等症・軽症・救命不可に分類した後、重症度別に対応場所に搬送し、初期治療を行い手術室や病棟に搬送するまでの流れを確認しました。



参加者の真剣な取り組みにより、緊張感のある訓練を実施することができました。

来年度からは、新しい救急・外来棟が災害医療活動の拠点となるため、現在の体制を見直す必要があります。今回の反省点を生かしながら、より充実した災害時医療を提供できるよう今後も努力を重ねていきます。

秋祭り 10月28日(火)

昨年実施した夏祭りに引き続き、今年度は秋祭りを実施しました。外来・病棟・院内保育所を「ワッショイ」の掛け声とともに回りました。バルーンアートのおみこしも昨年よりパージョンアップし、「す〜いね」「きれいだね」と喜んでいただけ、主催者一同ますますやる気が湧きました！
来年もさらに皆様に喜んでいただける企画を考えますので、ご期待ください！



市民健康講座

今後の予定

会場
3階 講義室

東部医療センターでは、患者さんや市民の方を対象に「市民健康講座」を毎月第3水曜日午後2時30分より開催しています。興味のある方はぜひご参加ください。

日時 12月17日(水)
午後2時30分～
講師 副院長
内視鏡センター長
川合 孝
テーマ 「増えていますよ、大腸がん!!」

日時 平成27年1月21日(水)
午後2時30分～
講師 放射線科部長
丹羽 正光

日時 平成27年2月18日(水)
午後2時30分～
講師 副院長
心臓血管外科
須田 久雄

日時 平成27年3月18日(水)
午後2時30分～
講師 院長
佐藤 孝一

※テーマが決まり次第、病院ホームページや千種区広報、院内掲示などでご案内します。

参加方法

参加申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください。
定員100名になり次第締め切ります。(講義時間は1時間～1時間半です)

お問い合わせ

管理課庶務係

連携医紹介

東部医療センターは「地域医療支援病院」として、地域の「かかりつけ医」と連携・協力し、高度な治療・検査・入院・手術などの急性期医療を提供しています。

足立内科



院長 足立 昌由

いつも東部医療センターの先生方には大変お世話になっております。足立内科は地下鉄本山駅2番出口徒歩1分、本山交差点北東に位置します。内科・循環器内科・小児科を標榜し、生活習慣病である高血圧症、糖尿病、高脂血症などの管理を行い、心血管疾患の一次予防(病気を起こさない)、二次予防(再発予防)を中心に行っています。患者さんに病気を理解し、納得して治療を受けていただきたと考えております。そして、当院を利用してよかったと満足して帰っていただけるように心がけています。



所在地 : 〒464-0807 名古屋市千種区東山通1-1
(地下鉄東山線・名城線 本山駅 2番出口より徒歩1分)
電話番号: 052-783-0078
診療科目: 内科・循環器内科・小児科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 5:00~7:00	○	○	—	○	○	—

洪内科クリニック



院長 洪 尚樹

洪内科クリニックは糖尿病治療に力を入れています。糖尿病を治すことはできません。このため、患者さんの日々の生活が治療に大きく関わってくる、コントロールが非常に難しい病気です。患者の立場に立って、医師が責任を持って治療する姿勢を崩さないように心がけています。糖尿病をいたずらに怖がるのも、あなどるのも問題です。無理せず人生をエンジョイしながら糖尿病と長くつきあっていく方法を一緒に考えていきましょう。



所在地 : 〒461-0004 名古屋市東区葵3-23-3
第14オーシャンビル1階(地下鉄・JR千種駅より徒歩1分)
電話番号: 052-930-1311
診療科目: 内科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~13:00	○	○	○	○	○	○
午後 3:00~6:30	○	○	○	—	○	—



初めて当院を受診される際は、ぜひ「かかりつけ医」などからの紹介状をお持ちください。

「かかりつけ医」をお持ちでない場合などには、患者さんの状態にあった「かかりつけ医」を探すお手伝いもしていますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ

地域医療連携センター
TEL723-7359 Fax 723-7356



平成27年3月
救急・外来棟開設予定

【診療科目】

循環器内科 消化器内科 呼吸器内科 神経内科 内分泌内科 腎臓内科 血液内科 リウマチ膠原病科 感染症科 小児科 外科 乳腺・内分泌外科 整形外科 脳神経外科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 疼痛緩和と支持治療科 救急科 麻酔科 リハビリテーション科 病理診断科 放射線科 歯科

【病床】

498床(集中治療室、脳卒中ケア室、感染症病室を含む)

【診療機能】

救急センター 心臓血管センター 脳血管センター 内視鏡手術センター 消化器内視鏡センター 外傷センター

発行者/名古屋市立東部医療センター 広報委員会 (年4回発行)

名古屋市千種区若水1-2-23 TEL052-721-7171

<http://www.higashi.hosp.city.nagoya.jp/>

東部医療センター

検索

